

グループホームさくらんぼ

地域密着型サービス自己評価票 (網掛け部分は外部評価も行う調査項目)

取組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取組んで いきたい 項目	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
			理念に基づく運営 1～5 (自己 1～24・外部 1～14)	自己評価24項目・外部評価14項目	0	
理念に基づく運営	1		理念の共有(自己 1～3・外部 1～2)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		1	地域密着型サービスとしての理念【外部評価】 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織は隣接されているが、ホーム独自の理念を作り、誰にでもわかりやすい場所(玄関、リビング、台所、交流室、スタッフルーム)に掲げている。	0	
		2	理念の共有と日々の取り組み【外部評価】 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1～2回行うケア会議や2ヶ月に1回のスタッフ会議の中で確認し合い理念に沿ったケアに取り組んでいる。	0	
		3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年2回開催される家族会やおおむね2ヶ月に1回の運営推進会議の中や地域の方を招いての祭りや、催し物の際に交流を深め理解していただくよう取り組んでいる。	0	
			2 地域との支え合い(自己 4～6・外部 3)	自己評価3項目・外部評価1項目	0	
		4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の魚屋さん、八百屋さん、酒屋さん、花屋さんを利用することで交流が深まり、気軽に声をかけてくれたり、立ち寄ってくれている。ホームの前を散歩している人たちとも気軽に挨拶を交わす関係が築けている。	0	
		5	地域とのつきあい【外部評価・重点】 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として町内会に入り地域担当者が月1回の会合にも参加している。地域の清掃や運動会、ソフトボール、バレーボール大会などにも参加し、地域に溶け込み交流の機会を多く作っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
理念に基づく運営	2	6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム長がキャラバンメイトとして出張講座を開き、地域の方に認知症サポーターの養成を広める働きかけを行っていきたいということを運営推進会議の中で伝えてる。会議の中でも職員が自分たちの知識や経験を地域に貢献できる方法を提案している。	0		
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己 7~11・外部 4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	0		
	3	理念を実践するための制度の理解と活用	7	評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の運営会議には運営者と各部署の管理者が集まっている。外部評価についても説明し、結果も報告している。自己評価についてはホーム長から説明があり、十分理解した上で良い介護を目指してケアを行う職員全員で取り組んでいる。	0	
			8	運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回入居者状況は報告している。より良いサービスを提供できるように取り組んでいる内容をわかりやすく報告している。評価への取り組み方や結果を交付し意見をもらっている、その事を記録に残しスタッフ全員に伝える事で更にサービスの向上に活かせるように取り組んでいる。	0	
			9	市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	わからないことや、尋ねたいことは積極的に連絡を入れたり足を運んで理解できるまで説明を受けている。市の集団指導には必ず参加し、市の研修にも可能な限り参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。またグループホーム協議会でも積極的に市との対話などの研修を取り入れている。	0	
			10	権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修には積極的に参加している。必要時に説明できるようにホーム長から説明を受けている。以前、成年後見制度を利用されている方が入居されていた事もあり、入居時や家族会などの機会に資料を配布し制度の説明を行っている。	0	
			11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画を立て内部研修の中で学んでいる。毎月行っているケア会議の中でも定期的に議題としており虐待につながる行為の再認識を行い、防止に努めている。地域包括からもらったマニュアルを活用している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
		4	理念を実践するための体制(自己 12~18・外部 8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	0	
理念に基づく運営		12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必要なだけ家族やご本人と面接を行い十分な説明を行い納得を得ている。退去時(入院治療が必要となり退去される事がほとんど)は医師とホーム側から十分な説明を行うことで同意を得ている。契約の改定時は説明と同意を得ている。現在までにトラブルはない。	0	
		13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で多くの意見、不満、苦情、要望などを引き出せるよう場面作りを行っている。介護サービス相談員や家族からの情報も大切に、運営に反映させている。意見や不満、苦情には速やかに対応している。	0	
	4	14	家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月郵送している。外出時や暮らしぶりの表情を写真やコメントを添えて伝えたり、職員の紹介も行っている更に3ヶ月毎に健康状態とケアプランの実施状況などを詳細にまとめた3ヶ月状況報告書も発行している。個々に預かり金ノートを作成し担当者が管理している、月末にはホーム長に確認印をもらい家族来苑時に報告している。	0	
		15	運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会時や来苑時に苦情や意見を聴取している。ホームの玄関と併設施設入り口にもご意見箱を設置し、利用しやすいように工夫しそれらを運営に反映するように職員全員で話し合い改善し、また結果については必ず家族に報告している。	0	
		16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の理事長、統括理事、顧問、事務部長、ホームの職員で行う2ヶ月に1回のスタッフ会議、ホームの職員のみで行う月1~2回のケア会議の場で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また必要に応じて個別に意見を聞く面談を行ったり、運営者に職員の声が届くようにチャレンジカードというものを取り入れ運営に反映させている。	0	
		17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	代表者と管理者の間で適宜話し合いが行われている。新人職員が入居者に与える不安をフォローするための勤務調節を行ったり、状況に合わせ対応できるように全職員が協力的である。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 理念の実践体制	18	職員の異動等による影響への配慮【外部評価】 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	組織の中の異動は最小限に抑えている。離職を最小限に抑えるため運営者と管理者は適宜話し合いを行い働きやすい職場作りのための改善に努め、職員の定着が得られている。	0	
		5	人材の育成と支援(自己 19~24・外部 11~14)	自己評価6項目・外部評価4項目	0	
	5 人材の育成と支援	19	人権の尊重【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性別や年齢等の理由で採用対象から排除することはしていない。ハローワークの募集内容にも年齢や性別の限定は記載していない。現在働いている職員については自ら考え学び行動する事で当人が本来持っている力や可能性を最大限に發揮出来るようにサポートしている。	0	
		20	人権教育・啓発活動【外部評価・追加】 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人グループの中で年間研修計画を作成し、内部研修を行っている。また外部の研修への参加希望があれば勤務の調整を行い、それぞれの職員が自己啓発に取り組んでいる。	0	
		21	職員を育てる取り組み【外部評価】 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部や外部共に積極的に研修に参加できるようにそれぞれの段階（経験年数）に応じて研修計画を立てている。休日を利用して研修参加を行っている職員もいる。研修参加後は復命研修を行うことで働きながらのトレーニングになっている。外部研修、資格の取得に関しては、シフトの調整や研修費の補助がある。	0	
		22	同業者との交流を通じた向上【外部評価】 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入している。管理者は役員をしており、年間計画を立て、毎月の研修会も夜の時間帯で参加しやすく、ネットワーク作りや情報の交換からお互いがサービスの質の向上につなげられている。ネットワークが広がる中で相互訪問の活動も進んでいる。	0	
		23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で年2回、無料のパーティーを開催しており、他部署の職員とも触れ合う機会を作っている。ホーム独自では月に1~2回食事などに出かけている。ホーム内に休憩所や勤務後ゆっくりと仕事が出来スペースも確保しており、環境作りに取り組んでいる。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人 支材 援の 育成	24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	2ヶ月に1回、運営者である理事長が入ってスタッフ会議を行い、研修報告や実績の報告を行っている。チャレンジカードの提出にて個人の状態を把握している。管理者は職員個々に合わせた面談を行って育成に努めている。	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2(自己 25～34・外部 15～16)				自己評価 1 0 項目・外部評価 2 項目	0	
安心と信頼に向けた関係作りと支援	1	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己 25～28・外部 15)		自己評価 4 項目・外部評価 1 項目	0	
		25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症高齢者の方から思いを聞き取る事は難しい事もあるが、家族や周りの方達の協力を得ながら、まずは受け止める事から本人との信頼関係作りを努めている。職員間で情報交換を密に行いアセスメントしている。	0	
		26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	数回の面談を行い聞き取りを行い、家族から声をかけやすい雰囲気作りに努め、受け止める努力はしている。関わっている医療や福祉とも連携を図っている。	0	
		27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限りの情報を集め全員で検討している	0	
		28	馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に遊びにきていただいたり、ホームの生活をお話ししたりと、まず行ってみようと思う気持ちになってもらえるように、家族とご本人の状態を見ながら相談し行っている。やむを得ず、即利用の場合は始めの2週間は家族に付き添ってもらい、安心して馴染んでもらえるよう工夫している。	0	
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価 29～34・外部評価 16)		自己評価 6 項目・外部評価 1 項目	0	
	係り2 継続 これ へま の支 援の 関 係 づ く り	29	本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する仲間として生活の知恵を学んだり、お互いが支えあうことで信頼関係を構築している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来援時や家族会などで、出来るだけ話をする機会を作り、行事への参加を呼びかけたり、ホームの生活の場にたくさん参加してもらうように努め、本人を支えていく関係作りを行っている。家族からの行事や外出先の提案もあり取り入れている。	0	
		31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月ひと目見て、ホームの生活ぶりがわかる(写真が主)ホーム便りと個々の写真を送付している。定期的に来苑していただけるように家族参加の季節行事や催し物の案内、ケアプランへの要望の聞き取り、その後の説明と交付など家族にご本人の今の状態をより理解してもらい、より良い関係作りを支援している。	0	
		32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人、知人が気軽に来訪され、お茶を飲みながらおしゃべりを楽しんだり、電話を取り次ぎゆっくりと話せるようにプライバシーに配慮し、手紙のやりとりも継続できるように支援している。本人や家族からの聞き取りで馴染みの場所を把握できるように努め可能な限り外出レクに取り入れている。	0	
		33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆さんご自分の席に対するこだわりが強い為、入居者の意見を尊重しながら、入居者同士の馴染みの関係を崩さず、その時、その時の状態や、それぞれの性格を考慮して、自室にこもり孤立しないように、入居者同士が関わり合えるような場面作りに努めている。	0	
		34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も定期的に連絡を入れ、家族の意向に合わせたお付き合いを大切にしている。	0	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1~4 (自己 35~51・外部 17~22)				自己評価17項目・外部評価6項目	0	
	1	一人ひとりの把握(自己 35~37・外部 17)		自己評価3項目・外部評価1項目	0	
	1	35	思いや意向の把握【外部評価】 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に入居者一人ひとりの世界に入り込み、入居者本人の視点で物事を捉えていくセンター方式アセスメントシートを活用し、ケアプランに反映させている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族またはケアマネージャー、入所していた施設から個々の生活歴や生活スタイル、これまでのサービス利用状況がわかる情報提供書をもらい、それ以外にも職員同士の情報交換の中で把握し、記録していくように努めている。	0	
		37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員が毎日の生活の中から入居者一人ひとりの望む時間の過ごし方や、レク活動、日常生活を営んでいる中から、出来る事、わかる事を把握し、それらをアセスメントシートに書きとめ毎月のケア会議の中で情報を共有している。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己 38~40・外部 18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2 介護計画の作成と見直し 本人がより良く暮らし続けるための	38 外部評価18	チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式アセスメントを取り入れ、本人や家族からの言葉を聞き取り、本人視点のケアプランをケアを行う職員全員で作成している。	0	
		39 外部評価19	現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、または状況に応じて適直行っている。	0	
		40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って行ったケアやその経過、小さな変化、本人の言葉等を毎日、介護記録とケアプラン実施表に記録している。その結果を毎月のケア会議で話し合い情報の共有、ケアプランの見直し、または継続につなげている。新しい情報は申し送りノートで共有している。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己 41・外部 20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 した多機能な支援を	41 外部評価20	事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理事長が医師であり主治医でもある為訪問診療でホームへ来る事も多く、ご本人や家族の要望をすぐに伝え対応する事ができる。併設施設の看護師や専門職(OT, PT)とも連携し法人内で24時間連携体制が整っている。通院時の送迎や付き添いにも応じられる柔軟な支援を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4		本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己 42~51・外部 21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	0	
		42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアを受け入れている。入居者施設時は地域の交番に行方不明対策表を持って行き協力を得る事になっている。地域の学校からの訪問もある。市民センターの教室に参加できるよう支援している。	0	
	4	43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向は家族と話し合い可能な限り家族と協力し支援している。	0	
		44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	おおむね2ヶ月に1回の運営推進会議の際などに地域包括より事例の説明を受けたり、高齢者虐待防止、権利擁護対応マニュアルを配布してもらい職員のミーティングの中で活用している。必要時は連絡を取り合っている。	0	
		45	かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と家族に希望を尋ね、主治医を選んでいただき希望に沿った医療を安心して受けていただけるように支援している。	0	
		46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が認知症の専門医であり2ヶ月に1回のスタッフ会議の中で相談をする機会が多くある。認知症の研修会に理事長が講師として参加し、職員も学んでいる。訪問診療でホームに来ることも多くちょっとした事でも気軽に相談できる関係を築いている。	0	
		47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を整えており入居者を良く知る併設施設の看護師に日常の健康管理について気軽に相談ができる。また母体であるクリニックの院長（理事長）と看護師にも相談が可能であり医療活用や健康管理の支援を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関を確保している。入院時はすぐにサマリーを作成し、本人の認知症の状態を詳しく伝え、出来るだけ混乱を減らし、認知症が急激に進行しないようダメージを最小限に抑えられるよう家族・医療と連携を図っている。職員は交代でほぼ毎日見舞いに行っている。	0	
		49	重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針については入居時に家族へ説明し、同意を得ている。職員全員での話し合いもマニュアルに沿って行っている。	0	
		50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	24時間医師及び看護師との連携体制は整えている。重度化や看取りに関する指針はチーム全員で把握し、今後の変化にも対応できるように研修にも積極的に参加している。	0	
		51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族とも十分に話し合い、移り住む側の関係者に対しては情報の伝達を行い出来る限りケアの継続に努めている。	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己 52～89・外部 23～33)				自己評価38項目・外部評価11項目	0	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価30項目・外部評価9項目	0	
		(1)	一人ひとり尊重(自己 52～54・外部 23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		52	プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの生活歴を把握し、考慮しながらの声かけを行いプライバシーには十分配慮している。個人情報保護法に関しては規定を全職員が熟知しており、誓約書もとっている。	0	
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりが発言しやすい雰囲気づくりや、個別への声かけで思いや希望を聞き取り、それらを伝えられない人に対しては日々の観察の中から働きかけ、思いや伝えたい事を見極め、自己決定の場面づくりを多く提供している。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部 評価 24	日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や関わりの中でその日をどのように過ごしたいかをくみ取り、可能であれば希望に沿えるように支援している。個々の趣味に取り組めるように柔軟な対応や、一人ひとりのペースを大切にする日常を支援している。	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己 55～60・外部 25～26)	自己評価 6 項目・外部評価 2 項目	0	
		55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向にて施設内に来てくれているボランティアの理美容を利用されたり、家族の協力のもと、馴染みの美容院に行かれている。季節の変わり目には買い物に出かけ好みの洋服を購入している。	0	
		56 外部 評価 25	食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的な献立は併設施設の管理栄養士の協力を得ているが、食事が楽しみなものになるように一人ひとりの希望は可能な限り取り入れている。誕生日や季節の行事に合わせて嗜好を凝らしている。また月に1～2回外食の機会を設け自己決定の場面を作る支援を行っている。安全面に十分配慮し、可能な範囲で準備や片付けを一緒に行っている。	0	
		57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	持病の悪化につながらないように配慮している。	0	
		58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて個々の排泄パターンや、習慣を把握するように努めている。失敗を減らす為にプライバシーには十分配慮し、さりげない声かけや誘導を行っている。数人の方が紙パンツを使用されているが定期的な声かけで清潔が保てるように支援している。	0	
59 外部 評価 26	入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の体調や気分に合わせて入浴時間帯（午前・午後）や長さを考慮し入浴を楽しめるように支援している。入浴に対して拒否が見られる方には時間を置いたり、職員同士の連携での声かけやタイミングの見極めに努めている。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活スタイルや体調を考慮し、安心して休めるように声かけ関わりを行っている。昼食後にくつろぎタイムとして昼寝の時間が定着している。居室で一人で休息をとることが不安な方にはリビングのソファークッションを使用し安心して昼寝が出来るようにしている。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己 61~66・外部 27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	0	
		61 外部評価 27	役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	持っている力を最大限に活かして、自分らしく暮らせるように個々に合った場面作りを支援している。職員主体にならないようにそれぞれの力を活かした役割(花の世話、裁縫、洗濯物たたみ、絵など)がある。	0	
		62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の希望に合わせている。ご自分で所持されている方や、外出時のみ預かっているお金をお渡しし、買い物を楽しめるよう支援している。	0	
		63 外部評価 28	日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	常時希望に沿うことは人員配置上難しい日もあるが、可能な限りご本人の希望に沿えるように支援している。家族の協力もあり個別の外出を楽しまれたり、全員での外出も多く取り入れている。	0	
		64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月外出の計画を立てご本人や家族の希望を取り入れ可能な範囲で支援している。	0	
		65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で自由に電話をかけたがり、手紙のやりとりを行っている。ご自分では難しい方には希望内容をお聞きして、職員が代わりに伝える支援を行っている。プライバシーには十分配慮している。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は設けているが、それぞれの事情を配慮し臨機応変に対応している。当人同士がくつろげるようにリビングや居室を自由に使用できるように支援している。湯茶も自由に使ってもらっている。久しぶりの再会で戸惑っている際にはさりげなく間をとっている。	0	
		(4)	安心と安全を支える支援(自己 67~74・外部 29~30)	自己評価8項目・外部評価2項目	0	
		67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成し、その中の身体拘束の定義を職員が正しく理解できるようホーム長が指導している。それをもとに身体拘束を行っていないか定期的にケア会議の中で話し合い記録を残し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。内部研修の年間計画の中にも組み込まれており、学んでいる。外部研修にも可能な限り参加している。	0	
		68 外部評価29	鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前が道路に面し危険が伴い安全面を考慮し玄関は施錠している。しかし中庭に通じるサッシはいつも開放しており自由に中庭へ出られる、中庭からも戸外へ出られるようになっているので自由に出入りできている。防犯上20:30~7:00の間は施錠している。	0	
		69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者を見渡せる位置での記録、キッチンは対面式であり、リビング内の入居者を把握することができる。2階立て構造なので2階に行かれる方にはさりげなく付き添ったり適宜居室を訪問し状態を把握しているがプライバシーには十分配慮している。夜間は2時間毎に巡視をし安全確認を行っている。	0	
		70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	使用の際は見守りのもと行っている。危険を伴う方には職員が支援している。使用後の刃物は指定の場所へ保管し、洗剤や薬品など誤飲の危険性のあるものは鍵付きの場所で保管している。その他の物品は使用後すぐに元の場所へ戻す事を職員は申し合わせ危険を防ぐ取り組みを行っている。	0	
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のさまざまなリスクを想定し、話し合いの中で対応策を考え防止に取り組んでいる。しかしやむを得ず、事故やひやりはっとが起こったときはすぐに対策会議を開き状態に応じた対応を行っている。報告書の回覧や他部署からの報告書からも学んでいる。ホーム長からの指導で職員はマニュアルを周知徹底している。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時や事故発生時のマニュアルを職員が目につく場所に掲示している。応急手当や初期対応についても内部研修の中で併設施設の医師や看護師から学んでいる。会議の中で訓練をし身につくようにホーム長から指導を受けている。	0	
		73 外部評価 30	災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月に1回ホーム内で避難訓練を行っている、昼夜共にさまざまな想定計画から実施まで記録に残している。全職員に防火管理者より指導がありマニュアルの周知徹底も行っている。運営推進会議の中で災害が起こった時に協力を得られるように働きかけている。災害時用に非常持ち出し袋を備えている。	0	
		74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの起こり得るリスクを毎月の会議または必要時に緊急に会議を開き話し合った対応策を、適宜家族へ伝えている。対応策については理解を得ている。年2回の家族会でも説明を行っている。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己 75~81・外部 31)	自己評価7項目・外部評価1項目	0	
		75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の持病やアレルギーの有無や留意事項はアセスメントシート(私の療養シート)に記入している。全スタッフがその情報を共有し把握している。いつもと違い気になる事は些細な事でも記録に残し、主治医へ報告し早期発見、対応につなげている。	0	
		76	服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理事長が医師であり会議の中で新しく処方された薬についてわからない事は質問している。その内容と薬の手帳の内容をアセスメントシート(私の療養シート)に記入し、情報の共有を図っている。服薬時は口の中に薬が残っていないか口腔内の確認を行い、確実な服薬のために3人の職員が目を確認を行っている。	0	
		77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて個々の排便状況や習慣を確認している。入浴時や排泄時に本人の了解を得て腹部の観察を行い便秘に対しては水分摂取や繊維質の摂取、運動や腹部マッサージ等で対応している。または主治医と相談し、薬を処方してもらっている人も居るが排便の状態に合わせて調節する支援を行っている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアの声かけや誘導を行っている各担当者が口腔アセスメントを記入し、情報の共有を行い、必要な方には訪問歯科診療の支援を行っている。その方に合わせた義歯の管理も支援している。	0		
		79	栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは併設老健の管理栄養士の協力を得ている。カロリー表を目安にし、個々の好みも取り入れている。食事摂取量や水分摂取量はその都度チェックし健康チェック表に記入し誰が見ても分かるようにしている。アルブミン値を定期的に検査し、栄養状態を把握している。	0		
		80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染食中毒委員会を定期的に行っている。併設老健の医師や管理栄養士、各部署の委員が出席し、マニュアルの見直しや季節に応じた感染症について話し合い、各部署に持ち帰り伝達、指導を行ったり、内部研修を開いている。マニュアルがあり職員は熟知している。感染食中毒、食中毒警報を家族へ文書で送付したり、玄関にも掲示している。	0		
		81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理マニュアルを作成している。調理用具等は遅番の職員が最後に殺菌消毒を行っている。食器類は乾燥機で高温消毒をしている食材を無駄なく使用できるように買い物は1日分を購入し、野菜や鮮魚類は近所の馴染みの店に注文し、新鮮な食材を安心して使用している。冷蔵庫内の清潔や賞味期限をチェック表にて管理している。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価 8項目・外部評価 2項目	0	
	2 生活の環境づくり	(1) 居心地のよい環境づくり(自己 82~86・外部 32~33)			自己評価 5項目・外部評価 2項目	0	
		82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節ごとの植物を植え、掃除や水やりの際に近隣の住民と挨拶を交わし、親しみやすく安心して出入りがしやすいような環境作りに努めている。またリビング向かいの併設施設の駐車場からも声をかけてもらいやすい環境で、中庭を通して出入りも出来るように工夫されている。	0		
		83	居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的にやわらかな色使いを心がけ、木と緑の空間を作り出している。不快な音や光がないか、入居者を観察しながら職員同士で声をかけ合い配慮している。毎月皆さんと一緒に作成する季節に関連したポスターをリビング内に飾っている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に自由に過ごしたい場所を選んでもらっている。馴染みの関係を築いている入居者同士であったり、または一人になりたい時などは、自席やソファ、エレベーター前のベンチ、中庭などで思い思いに過ごせる場所の工夫をしている。	0		
		85	居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の環境の変化からくる不安や混乱が軽減できるように、また居室で一人になった際に少しでも安心できるように、家族と相談し今まで生活されていた場所で使っていた使い慣れた馴染みの物や趣味で作成された作品等を持ち込んでもらっている。	0		
		86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングや各居室に温度計を設置しこまめに室温をチェックしている。各入居者の方にも「暑い、寒い」を尋ねながらその状況に合わせて外気温と室温に大きな差がないように配慮している。適宜窓を開け空気入れ替えを行い、室内で犬を飼っているので消臭衛生面には配慮している。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己 87~89)			自己評価3項目	0	
		87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時その時の入居者の状況に合わせて、安全にできるだけ自立した生活が送れるように手すりの設置やスロープの設置を工夫している。2回上がる階段は段差は低く、幅が広いということもあり、可能な方の運動に活用している。	0		
		88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力に合わせ、見守りながら行っていくことで自信を持って生活できるように、さりげない誘導プレートや目線に合わせた表札などの工夫をしている。	0		
		89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には季節に合わせた草花を植えており、季節感を味わってもらえるように、天気の良い日には東屋にてレクリエーションを楽しんだり、運動を兼ねて散歩をしたりと自然と触れ合っている。一画には小さな畑を作り季節の野菜を栽培している。また2階の各居室からも中庭の景色を眺められる。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	
サービスの成果に関する項目	90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	1		
	91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	1		
	92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1		
	97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	1		
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	1			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	1	
		100	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	1	
		102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族と 家族等の2/3くらいと 家族等の1/3くらいと ほとんどできていない	1	
サービスの成果に関する項目				取り組みの成果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該当番号	

サービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。